

TEAC

ティアック株式会社

平成23年3月期 **事業報告**

第63期 当社をとりまく環境の変化

■ 経済環境の変化

わが国経済は、急激な円高、高失業率により足踏み状態が継続

世界経済は、回復傾向にはあるものの、回復が緩やか
震災の影響が不透明

■ 当社の対応

売上高は減収ながらも営業利益、経常利益は増益

次期のストレージデバイス事業の事業環境の悪化が予想され、希望退職等の事業再構築の実施に伴う特別損失を計上のため、当期純損失を計上

第63期 当社をとりまく環境の変化

当連結会計年度におけるわが国経済は、好調な新興国経済に支えられ、輸出主導で回復傾向にあったものの、夏以降の急激な円高の進行や高失業率などの影響で足踏み状態が続きました。また、世界経済は、全体として回復してきているものの、その回復は緩やかなものでありました。

このような状況の中、上半期好調であったストレージデバイス事業の市況の悪化、為替環境の悪化、コンシューマオーディオ事業の不振などで、当連結会計年度の連結売上高は36,867百万円（前期比9.5%減）となり、新中期事業計画の初年度計画は未達となりましたが、前期との比較では減収ながらも営業利益は1,003百万円（前期比80.8%増）、経常利益は348百万円（前期比1,004.9%増）と大幅な増益となりました。しかしながら、次期のストレージデバイス事業の事業環境の悪化が予想される中、次期に向けての対応として、希望退職を始めとする事業再構築の実施に伴う特別損失を計上したことなどにより、当期純損失は1,303百万円（前期当期純利益64百万円）となりました。

第63期 コンシューマオーディオ事業の状況



換算レート

◆米ドル

平成22年3月期：92.89円

平成23年3月期：85.74円

◆ユーロ

平成22年3月期：131.18円

平成23年3月期：113.13円

■ 高級AV機器 (ESOTERICブランド)

日本市場にてSACDプレーヤーのフルモデルチェンジが好評だったが、上半期の海外市場での低迷が響き通期で営業損失

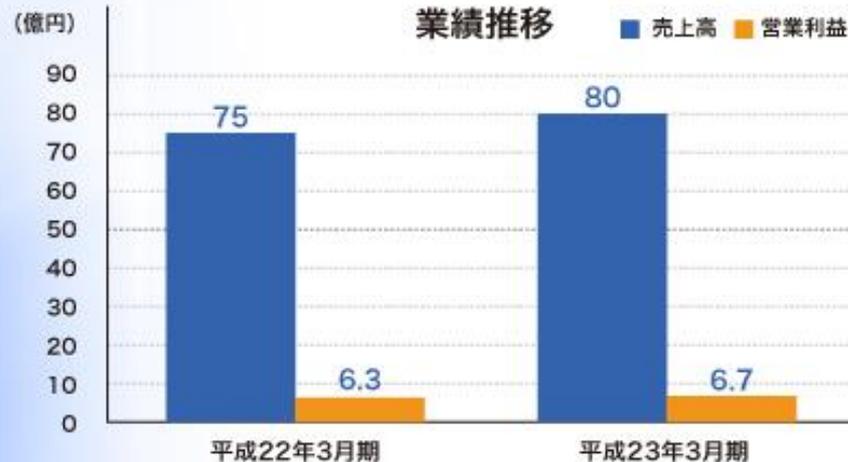
■ 一般AV機器 (TEACブランド)

最大市場の米国で不振、欧州、国内は回復傾向となるも減収、営業損失拡大

第63期 コンシューマオーディオ事業の状況

コンシューマオーディオ事業の売上高は5,039百万円（前期比27.1%減）となり、営業損失446百万円（前期営業損失267百万円）となりました。高級AV機器分野（ESOTERICブランド）は、日本市場においてはPCオーディオとの親和性を持たせたSACDプレーヤーのフラグシップ機のフルモデルチェンジが好評価を受け、第3・第4四半期は営業黒字でしたが、第2四半期までの米国など海外市場での低迷が響き、通期では営業損失となりました。一般AV機器分野（TEACブランド）では、最大市場である米国における販売が伸びませんでした。欧州は不採算商品カテゴリーの撤退により採算は回復傾向にありますが、撤退における一時的損失の発生がありました。国内は第4四半期に入り販売が回復しておりますが、コンシューマオーディオ事業全体としては前期と比較して売上高が減少し、営業損失が拡大しました。

第63期 プロフェッショナルオーディオ事業の状況



■ 音楽制作オーディオ機器 (TASCAMブランド)

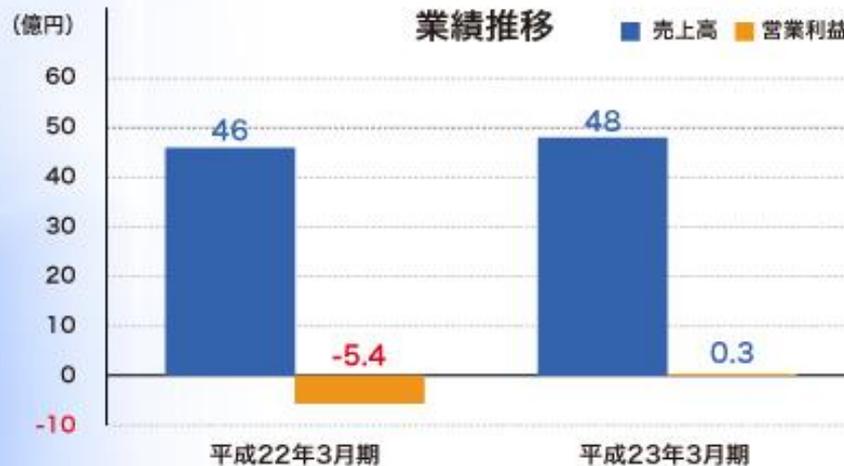
新製品の投入もあり、個人向け音楽制作用録音機器が米国を中心に好調

設備市場向けが回復、放送局向けも増加し、増収増益

第63期 プロフェッショナルオーディオ事業の状況

プロフェッショナルオーディオ事業の売上高は8,094百万円（前期比6.6%増）となり、営業利益は678百万円（前期比6.4%増）となりました。音楽制作オーディオ機器（TASCAMブランド）は、新製品の投入もあり、個人向け音楽制作用録音機器の販売が米国を中心に好調であること、設備市場向け業務用音響機器の販売も前期と比較して需要が回復したこと、また、放送局向け大型受注の出荷が12月より開始されたことにより、前期と比較して増収増益となりました。

第63期 インフォメーションシステム事業の状況



航空機搭載用記録再生機器、医用画像記録機器は大幅増収

トランスデューサーは、LED用サファイア結晶製造ライン向け、車載用リチウムイオン電池製造ライン向けロードセルの出荷開始により増収

インフォメーションシステム全体では増収増益、営業黒字化

第63期 インフォメーションシステム事業の状況

インフォメーションシステム事業の売上高は4,802百万円（前期比2.3%増）となり、営業利益は39百万円（前期営業損失542百万円）となりました。航空機搭載用記録再生機器の販売及び医用画像記録機器は第4四半期も販売が伸張し、前期を大きく上回る結果となりました。トランスデューサー分野ではLED用サファイア結晶製造ライン向けロードセルがLED市場の拡大に伴い伸張したこと、また、3月には車載用リチウムイオン電池製造ライン向けロードセルの大型案件の出荷が始まり、前期を上回る結果となりました。IT業界の不況もあり通話録音機器、ディスクパブリッシング事業での販売は不振でしたが、ディスクパブリッシング事業については組織改造を実施し、採算性は改善しました。ソリューション事業は介護支援個別ケアシステム（コメントケア）の新製品の開発遅れにより、前期と比較して減収減益となりました。インフォメーションシステム事業全体では前期と比較して増収増益となりました。

第63期 ストレージデバイス事業の状況



DVD-R/RW/RAMドライブは第2四半期までは好調、第3四半期以降は価格急落の影響大

DVD-ROMドライブもDVD-R/RW/RAMドライブの価格下落、他社参入により減収

フロッピーディスクドライブの販売終息

ストレージデバイス全体では減収減益

第63期 ストレージデバイス事業の状況

ストレージデバイス事業の売上高は16,808百万円（前期比16.5%減）となり、営業利益は537百万円（前期比23.7%減）となりました。DVD-R/RW/RAMドライブは、前期下半期から続いた市場需要増により、第2四半期までは好調な販売でしたが、第3四半期以降には、市場における在庫過多に端を発した価格急落の影響を受けたことにより減収となりました。DVD-ROMドライブは、従来のスリムモデル（12.7mm高）に加え、スーパースリムモデル（9.5mm高）の販売が堅調に推移しましたが、DVD-R/RW/RAMドライブの市場価格下落の影響、及びDVD-ROMドライブの他社参入を受け減収となりました。また、フロッピーディスクドライブが販売終息を迎えたこともあり、ストレージデバイス事業全体では、前期と比較して減収減益となりました。

第63期 全社の状況

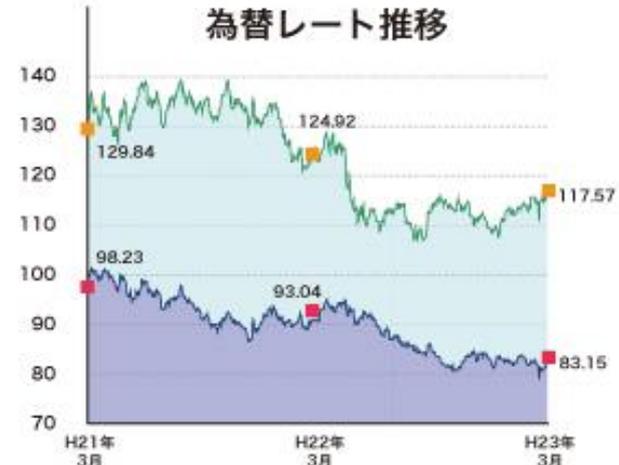
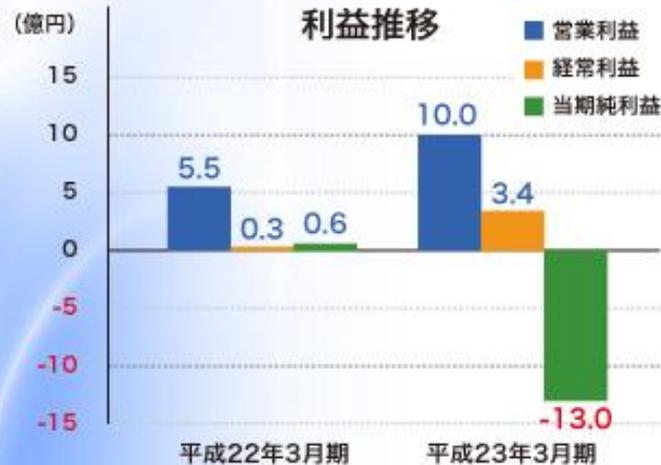


■ 売上高

ストレージデバイス事業の市況悪化、為替環境の悪化、
コンシューマオーディオ事業の不振により売上高減少

プロフェッショナルオーディオ事業、インフォメーション
システム事業は増収

第63期 全社の状況



- **営業利益：** 80.8%増
- **経常利益：** 1,004.9%増
- **当期純利益：** 特別損失の計上により当期純損失

— US \$
 — EU €
 ■ US \$ 期末日
 ■ EU € 期末日

対処すべき課題 - 収益構造の転換

- 市況の悪化に伴う競争の激化による当社製品のシェアダウンによるストレージデバイス事業の次期売上高の大幅減少見込に対し、適正規模の人員構成の実現により次期の業績悪化を回避するため、希望退職者の募集等の構造改革を行う
- 前期に実施した組織数の削減、重層構造の解消による指揮命令系統の明確化をさらに推進するため、平成24年3月期第2四半期より、以下のとおり現在の4事業部体制から2事業部体制へ移行する

新事業部	現事業部
音響機器事業部	コンシューマオーディオ事業部
	プロフェッショナルオーディオ事業部
情報機器事業部	インフォメーションシステム事業部
	ストレージデバイス事業部

第63期 連結貸借対照表 - 純資産



■ 第63期末の自己資本比率は18.0%

当期純損失1,303百万円の計上に加えて、円高に伴う海外子会社の純資産の減少等により純資産額は減少

それにより自己資本比率も3.6%減少

第63期 連結貸借対照表 - 有利子負債



■ 実質有利子負債はゼロ以下、実質無借金を維持

営業利益の増加、売掛債権及びたな卸資産の圧縮等による
営業キャッシュ・フローの改善

銀行借入金の返済による有利子負債、現金及び預金の減少

第63期 連結損益計算書

TEAC

ティアック株式会社

平成23年度 事業報告

■ 特別損失: 1,546百万円

主な内訳

一 減損損失（主にティアックマレーシア閉鎖に伴う不動産の減損）	208百万円
一 特別退職金（主にティアックマレーシアの閉鎖、ティアックアメリカの固定費削減による）	358百万円
一 事業構造改善引当金繰入額（主にティアック株式会社の希望退職募集による）	587百万円

第63期 連結株主資本等変動計算書

平成23年3月期

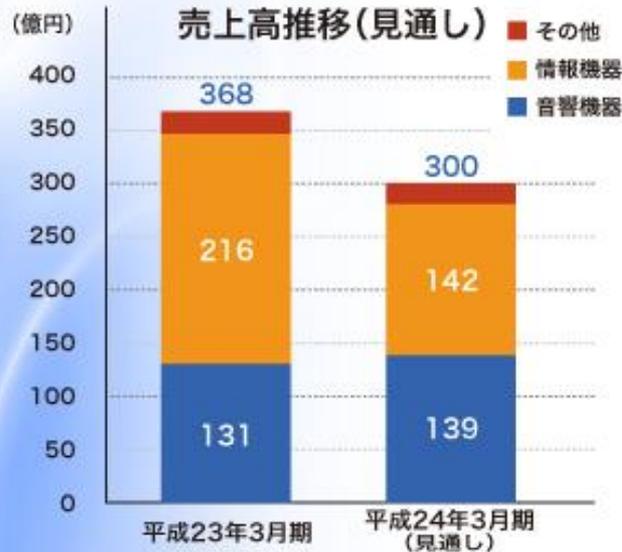
(単位：百万円)

	株式資本					その他の包括利益累計額			純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己 株式	株主 資本 合計	その他 有価証券 評価差額 金	為替 換算 調整 勘定	その他の 包括利益 累計額 合計	
平成22年3月31日残高	6,781	1,008	1,991	△ 105	9,674	63	△ 3,632	△ 3,868	5,805
当期変動額									
当期純損失			△ 1,303		△ 1,303				△ 1,303
自己株式の取得				△ 0	△ 0				△ 0
株式資本以外の項目の 当期変動額(純額)						36	△ 712	△ 676	△ 676
当期変動額合計	-	-	△ 1,303	△ 0	△ 1,304	36	△ 712	△ 676	△ 1,981
平成23年3月31日残高	6,781	1,008	687	△ 106	8,369	99	△ 4,645	△ 4,545	3,824

■ 株主資本は、当期純損失等により1,304百万円減少

■ その他の包括利益累計額は、円高に伴う海外子会社の純資産の減少等により676百万円減少

次期の見通し



情報機器事業の売上高は減少見込みだが、利益率の高い音響機器事業の売上高の増加により増益を見込む

想定レート
 1米ドル = 80円
 1ユーロ = 110円